

オサケスタティスティックス
お酒 STATISTICS
ちょっと意外な、お酒の統計情報紹介

当社は、「クラフトビール」「ワイナリー」「ウイスキー・ジン」の生産者を継続的に調査し、「全国生産者リスト」としてホームページで公開しています。最近、これら3つのリストを2024年末の状態にアップデートしたので、今回はその分析ダイジェストを紹介します。3つの酒類は「過去5年に生産者数が急増」という共通点があります。

<ウイスキー：スライド 1> 当社リスト掲載のウイスキー生産者数は「118」です。専門誌などでは「100強」とする場合がありますが、当社は網羅的リストとするため、「宝酒造、合同酒精など、国内向けブランドを持つ会社」あるいは「ウイスキー免許または・かつ蒸留設備はないが海外向けブランドを持つ会社」なども含むので、多くなっています。リストには、わかる範囲で蒸留器のタイプ・メーカーも記載。118か所のうち「ポットスチル」を使用する蒸留所は50か所、ポットスチル総数は当社集計では139基、139の内訳は三宅製作所78基、フォーサイス30基、その他31基（アメリカ製、ドイツ製、イタリア製、ポルトガル製、日本製、中国製など）となっています。ジンの生産者数は105程度で、ウイスキー・ジンの両方を生産するところが30程度あります。

<スライド 2> 国税庁の公表統計をグラフ化したものです。折れ線グラフは「ウイスキーの製造場数（主たる製造※）」で、近年急増し2023年に66場になっています。（※主たる製造＝複数の品目を製造する場合はウイスキーの製造量が一番多い製造場）それとは別に「他酒類が主だが、ウイスキーも製造する」ところが100以上あります（表の右端欄）。棒グラフはウイスキー免許の新規取得数で、これも2020年以降急増です。免許取得状況を考慮すれば、ウイスキーの製造場数（主たる製造）は2030年には「150程度」になると考えます。

<ワイン：スライド 3> 当社リスト記載の「ブドウのワイナリー」は「557」です。横棒グラフは、地域別のワイナリー数で、山梨108、長野97、北海道75の3地域が突出しています。棒グラフは創業年で色別に積み上げています。「2000年以降創業」（オレンジ色より右）が、山梨43、長野83、北海道67となっています。円グラフは全国状況ですが、「2000年以降創業」が全体の3/4であることが分かります。

<スライド 4> 折れ線グラフは国税庁による「果実酒の製造場数（主たる製造）」で、2023年には551場となっています。これはブドウ以外の果実酒も含んだ数字です。一方、棒グラフは過去の当社リストからで、2024年末に557。当社の数は「ブドウのみ」ですが、「主たる製造でないもの」も含まれます。今後5年（2025～29年）で、さらに120程度開業と予測。ブドウのワイナリーは、2030年には「700程度」になると考えます。

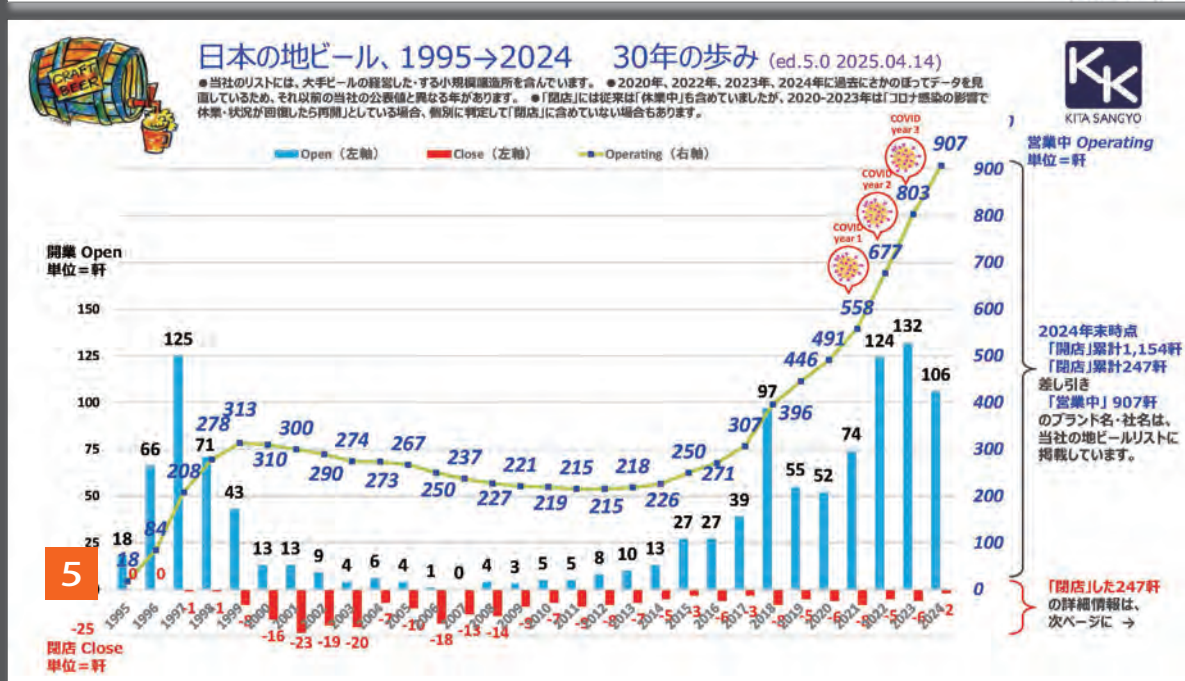
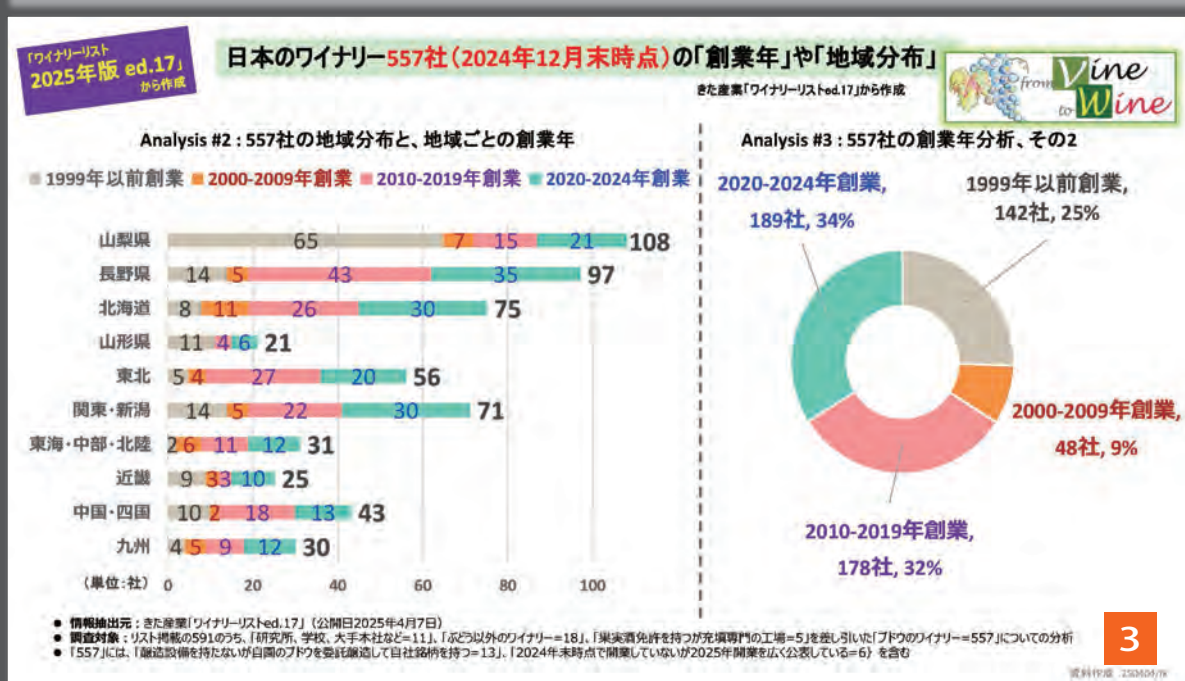
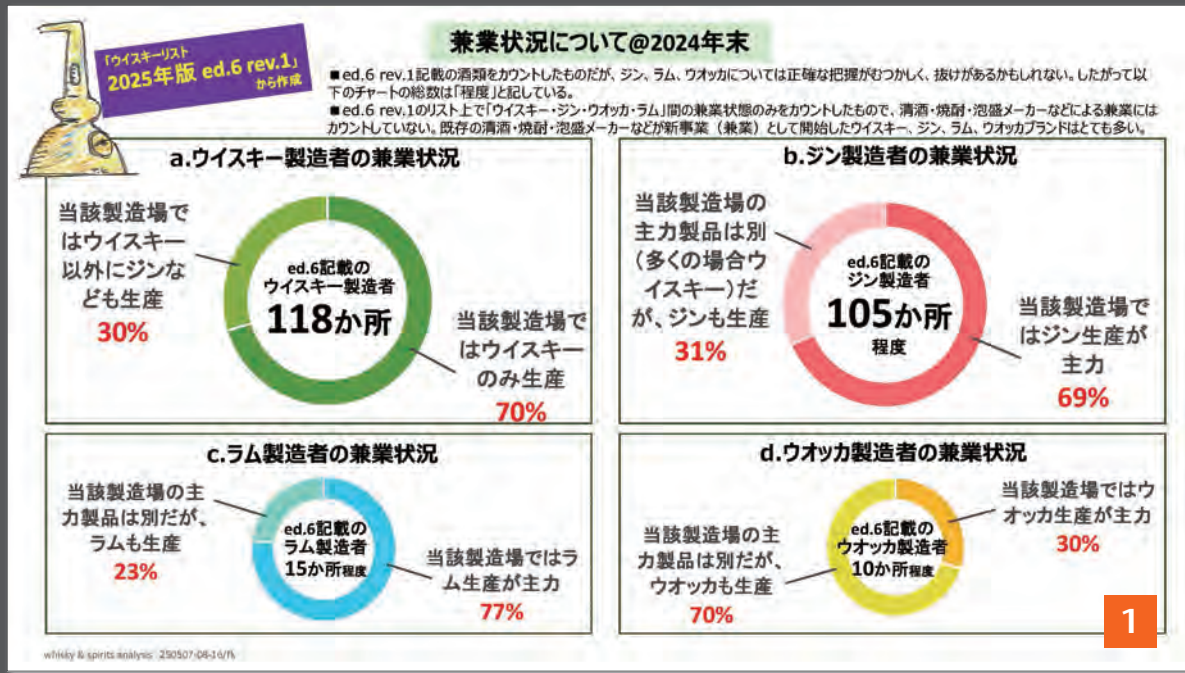
<クラフトビール：スライド 5> 当社は1995年の「地ビール解禁」以降、毎年の開業・閉店の醸造所数を継続的に調査しています。30年間累計で開業1,154、閉店247、差し引き「907」が2024年末営業中となっています。2030年には「1,200程度」になると予測、実動する清酒蔵元数を追い抜く可能性があります。なお、当社のリストは「スプリングバレー」（キリン）や「隅田川ブルーイング」（アサヒ）など、大手による小規模蒸留所も含んでいます。

<スライド 6> 都道府県別の醸造所数を棒グラフで示しています。1位東京123、2位神奈川61で、首都圏集中が分かります。「クラフトビール1軒当たりの人口」を見ると、東京は11.4万人、鳥取（人口が一番少ない県）は6.9万人となっています。日本の全国平均は1.23億人÷907軒＝13.5万人、因みにアメリカ（2024年）は3.40億人÷9,796軒＝3.5万人です。（text＝t.kita）

分析資料のすべてのページは以下のサイトで閲覧できます。



ちょっと意外な酒類の統計、あまり知られていない統計データを、ビジュアルな資料で紹介するコーナー。当社で蓄積しているデータを不定期連載でお届けします。



今回は「増える酒造所、ウイスキー・ワイン・ビールの統計データ」＋「2030年予測」です。

